

5月3日（憲法記念日）に、ごいっしょに歩きましょう！

「変えたらアカン！平和憲法」 市民パレード IN とよなか

11:00 豊中市役所前広場集合 11:20 パレード出発

***** 大阪弁ト〜ク *****

「秘密保護法通りましたな」

「あんなに、反対が多かったのにねえ、強行しよった、国民の声に耳を貸せ、いいたいわ」

「今度は集団的自衛権でっせ、今までの政府がずーっと認めていなかった集団的自衛権の行使を内閣の判断で行使できるようにするゆうてます。」

「あの、ようわからんのやけど、集団的自衛権ってどこが問題なん？」

「自分の国が攻撃されたら防衛するゆうんが個別的自衛権です。集団的自衛権ゆうんは自分の国が攻撃されてのうても同盟国が攻撃されてたら一緒に戦うことです」

「アメリカが戦争してたら一緒に戦争するゆうことやね」「ご名答」

「そないなことになったら、どこへでも行って戦争できるゆうことや、日本は戦争放棄したはずやで、9条はどないなるん」「そう憲法9条は骨抜きになってしまう。」

「そういえば武器輸出も OK ということになったらしい」「いままでは原則は武器輸出したらあかんということになってました、けどいろいろ例外をつくってちょこちょこ輸出はしてましたけどな。今度は防衛装備移転という名にして、原則は輸出できる、けど例外は云々。180度転換や。これはおおきいことです」

「おそろしいな、戦争のできる国にしようということやね、安倍さんは国会で絶対多数とったから何でもできる思うてるんや、けどうちは反対やで」

「世論調査では集団的自衛権容認反対、九条守れという人が多い」

「国の針路決めるんは国民や、もっと、もっと大きな声でいわなあかん、壊すな平和憲法」

「5月3日のピースパレードでアピールしましょ！」



「忘れてはいけないこと」

危険な風潮が広がっています。中国軍は張り子の虎だとか、韓国軍はたるみ切っているとか、戦争になったら日本が勝つなどと書き立てた新聞や本や週刊誌が売られています。嫌中憎韓なる言葉までうまれました。

戦争をする国にしたいのですか？

かって帝国憲法の統帥権条項を盾に軍部が力を伸ばし、2・26などのテロ事件を背景に国政を乗っ取り、独裁政治を始めました。戦争に突入。アジアの国々に大きな損害を与えただけではありません。敗戦必死の状況になっても軍部は戦争をやめようとしなかった。平和の道は閉ざされ、空襲、沖縄戦や原爆、満州開拓団の悲劇がおこり無条件降伏せざるを得なかった。軍部のおかげで国民は塗炭の苦しみをなめたのです。今は民主主義だから独裁や戦争にはならない？しかし・・・

ナチスは民主主義の中から生まれた

ナチス登場期のドイツは最も民主的な憲法を持つ国でした。

1930年代世界恐慌の中ナチスは排外主義を煽り、軍備増強を叫びナチスに投票すれば経済がよくなると大宣伝しました。政権を取るとお金をばらまいた。一時的に景気が良くなる、支持率が上がる。国民の支持を背景に全権委任法を成立させ独裁と侵略と虐殺への道を突走しました。

今の日本に似ている

政府はお金をばらまき、アベノミクスで景気はよくなっていると宣伝しています。

国会では、「憲法が権力を縛るという考えは古い」という首相答弁がありました。憲法の最重要な役割を否定する言葉です。旧日本軍の責任を消してしまおうとする動きも盛んです。今こそ叫ばなければならない。

300万人もの犠牲の上に、国民主権、平和主義、基本的人権保障の憲法を手に入れたということを忘れてはいけない。69年間、戦争をしていない国だということを私たちは誇りに思い、子や孫に伝えていかなければならない。（熊野以素）

「2014年を境に、日本は平和国家から軍事国家に戻りました」そんな歴史を刻まないための学習会

2014年3月21日、豊中市立岡町図書館の集会室にて吉田栄司さん(関西大学法学部教授・憲法学者)を講師にむかえ、学習会を開きました。吉田栄司さんは、いちばん星結成直後の2005年5月に「憲法連続学習会」で憲法の基礎を教えてくださいました、恩師のような方です。今回は、右傾化の激しい流れの中でアップアップしている私たちに、明快な現状分析と歴史的・人類史的な視点で、目指す方向を示していただきました。

はじめに

今みなさんが感じている危機感や焦り、安倍氏の言動へのマイナス評価は、私自身も共有している。私は憲法の研究者として「当然です」と申し上げたい。

「改憲論(軍国主義)への反対は、根気よく粘り強く続けるしかない。」と50年前に宮沢俊義(東大法・憲法学教授)が述べている。あきらめることなく「おかしい」と言い続けるしかない。民主主義の元では、社会の構成員たちが、(自分が、みんなが、)認識を深め続け、動き続けるしかないし、そうすることが大事。その認識を深めるお手伝いのために、今日私はここに来ました。

安部首相の言動の背景

長州の文化を持つ安倍氏は、明治政府感覚(天皇崇拜、アジア蔑視)を持ち、保守的な長州藩の行動指針をもった人物だと考える。こういう感覚が第2次世界大戦を引き起こしたということ認識していない。

安倍首相は2006年の秋に小泉首相を引き継いで登場。自分の代で憲法改正を実現するぞと意気込み、周りも期待をかけた。まず防衛庁を防衛省に格上げし、教育基本法改悪を実現した後、2007年5月に憲法改正国民投票法を強行採決した直後の7月の参院選で敗北。その敗北の原因の一つに「九条の会」の広がりがあった。(2004年6月、大江健三郎らが九条の会アピールを出して以来、2007年の段階で草の根九条の会のものすごい広がりがあった。)そのことも踏まえて、今回は改憲を全面に出さず、アベノミクスという経済政策の切り口から、ともかく景気が良くなりそうという雰囲気作りを先行させて、軍事化をそれに乘せていくという戦術をとっている。選挙にも勝ったし、もう周りに反対されようが、韓国や中国がどう言おうが、靖国に行くぞと、1年たって突然靖国参拝した、というふうに私は見ている。

歴史の教訓

「国際貢献のために強い軍隊が必要」などと言うが、歴史を振り返れば、大東亜共栄という名目でいかにアジア諸国を痛めつけてきたのか。国際貢献という名のもとで軍を使って、全く貢献にならないことをやってしまうということを、私たちは知っている。

核兵器の発達のもと、戦争を抑止する手段としては

軍備の廃止しかない、という先見から憲法9条が生まれた。その段階での世界憲法的最先端と云っていいものを持っているが、それを実現させないようにしようとする内閣がずっと続いている。

デモクラシーを潰して軍国主義

の枠組みに戻そうという勢力に対抗していくためには、国民が根気よく反対していくしかない。そういうことに成功したとき、はじめて日本の憲法は自主的な民主憲法になる。国民がコントロール権を持っていることが国民主権。9条にワイマール憲法の轍を踏ませるてはいけない。



「3分の2」の歯止めの重要性

—9条にワイマール憲法の轍を踏ませるな

ドイツは、1919年民主的なワイマール憲法(日本国憲法のお手本にもなった)を作りながら、わずか14年で民主制は命を絶たれる。ナチスが表現の自由を悪用して40数%の議席をとり、首相指名を受け、議会で多数派となり「今後法律を制定する権限を国会は内閣にゆだねる」と決議。瞬間、議会制停止、政党制停止、選挙停止、憲法停止。そして独裁へ。

朝日新聞の社説(2014年1月3日)の最後にヒトラーのことが出ている。昨秋ドイツに憲法審査会が視察に行った時、独連邦議会の議員がこういうことを言った。「当時の改憲発議要件に3分の2という特別多数の設定があったなら、ヒトラー独裁を許さなかったはず。」そう言ってくれているのに、過半数で憲法をどんどん変えられるようにしようとしている。歴史の教訓をまったく学んでいない。ワイマール憲法の轍を踏ませるかどうかは、有権者の判断にゆだねられている。国民主権とはそういう厳しい責任をも国民に負わせていることを我々は自覚しなければならない。



*** 以下、質疑応答より ***

「自衛」について

—若い人の中で、中国が領海侵犯してもこちらが手を出せないという苛立ちから、ナショナリズムに結びついて日本の自立的自衛や核武装までもが必要と言いはじめている。私たちは彼らにどういう言葉で伝えていったらいいのか。

国連憲章 51 条に self defense (自衛) の権利がすべての国にあるということを書いてはあるが、武力による自衛は、国連の安保理がしかるべき措置をとるまでの間、例外的にしか認められない。19 世紀の段階では自衛戦争や制裁戦争は当然の権利として認められていたが、今は国連憲章に「戦争は違法」と明記されている。

国連憲章が 1945 年 6 月に制定された段階で、米ソ対立を念頭に、トルーマン大統領がアメリカの仲間をつくるために「collective defense (集団的自衛)」という言葉を入れさせた。この条項が出来たときにはまだ人類は核兵器の威力を見ていない。国連憲章より日本国憲法の方が時代的に後ということがポイント。原爆のすさまじい破壊力を知った当時の総理大臣・幣原喜重郎がマッカーサーとやりとりし、「もはや自衛なんてことは有り得ないでしょ」と意見が一致。核兵器を含む軍備・軍隊の廃止こそ戦争を完全に廃止する手段であるという考えから 9 条ができた。「9 条は二人の合作」とマッカーサーは回顧録で書いている。

軍を持つことが自衛(自分を守る)にはならないということを私たちは確信にしなければならない。軍なるものがあれば、必ず人を(自国民さえも)傷つける。いみじくも「積極的平和主義」という言葉を使うが、言い換えれば「最大の防御は攻撃だ」ということ。守るためにという名目で軍を出す。マスコミをも駆使して国民をあおっているが、そういう流れに乗ってはいけない。世界史的、人類史的な「非戦」の流れへの確信をどこまで持つのかということ。

—秘密保護法についてどのように考えればよいか

これは表現の自由などのレベルの問題ではない。まさに「国防軍を獲得していくための、先取りのな法整

備」と見なければならぬ。特定秘密保護法というものが保護しようと考えている根底が軍事情報であり、軍事情報にはあらゆる公的情報がつながる。報道の自由どころか、教育、福祉…何から何まで歪められていくことになる。国民に知らしめないで、税金を集め使う人たちがより自由に動けるように、というのが特定秘密保護法が狙っていること。「秘密保護法違反」という目に見えない網を張られ、あらゆる所で日本国憲法の実現要求が国民から発しにくくなる。それほどヒドイものだ。こんな法律を許してはいけない。

(こういう集會も開けなくなる、ということですね?) そう。秘密保護法違反という方向にもっていかれる可能性がある。

重要なことは、今の日本国憲法は住民を主権者としてしっかり位置づけていること。「私たち」が重要な意志主体であり権力の源泉。私たちが学習し働きかけていくことで総意を変えていく、引き上げていく、ということを一一人一人がやっていく。そういうあるべき個人像を憲法は描いているのだろう。

(記録 筒井百合子)



祝・「9の日パレード」第100回目！

2006 年 1 月 9 日にスタートした「9 の日パレード」。雨の日も雪の日も、猛暑でも、毎月 9 日に歩き続けて 8 年 4 ヶ月。2014 年 4 月 9 日が第 100 回目でした。いちばん星も 1 回目から毎回参加しています。「継続は力なり」みなさんもぜひ一緒に。

毎月 9 の日 正午に中の島公園女神像前集合。(大阪市役所の南側) 通常は梅田まで歩きます。

* 写真中央は発起人・代表の辻公雄弁護士。



いちばん星メンバーの手作り横断幕登場！

5m以上の大作です。5月3日のパレードにも登場しますのでご注目ください。作ったAさんは、通りに面したご自宅の垣根にこれを掲げています。見つけたらエールを送ってくださいね。

INFORMATION

5月3日・憲法記念日にみんなで歩こう！

第9回 市民パレード I Nとよなか

11:00 豊中市役所前広場集合・ミニ集会

11:20 パレード出発 豊中駅まで

憲法記念日の市民パレードも9回目となりました。今年のキャッチフレーズは「**変えたらアカン！平和憲法**」さあ皆さん、ご一緒に歩きましょう。「わたしたち市民は戦争する国を望んでいないよ！」と元気にアピールしましょう！
主催：市民パレード I Nとよなか実行委員会

毎月9日は9条の日。アクションにご参加ください！

■「変えたらアカン！平和憲法」 in 豊中！ ■

「平和憲法を変えたらアカン！」と、毎月9日、いちばん星のメンバーも参加して、呼びかけています。一緒に行動しましょう。

日時：毎月9日 18:00～19:00

(9日が日曜・祝日の場合は、11:00～12:00)

場所：阪急豊中駅前人工広場

主催：「変えたらアカン！平和憲法」 in 豊中実行委員会

九条の会・おおさか 2014 憲法記念日のつどい

5月3日(土・祝) 12:30 開場 13:00 開会
会場：大阪城野外音楽堂(森ノ宮駅から徒歩5分)

- 講演：鳥越俊太郎さん「メディアと九条を考える」
- アピール：「戦争する国」づくり STOP！ 府民大集合
- 演奏：初芝立命館中学・高校吹奏楽部
- 京橋までパレード

資料代：500円 高校生以下無料 手話通訳あり

主催：九条の会・おおさか(06-6365-9005)

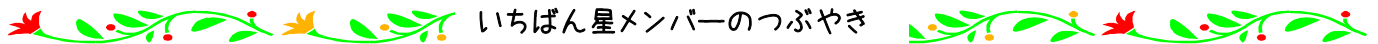
NEWS> 憲法9条がノーベル平和賞候補に！

「憲法9条にノーベル平和賞を」実行委員会に、ノルウェーのノーベル委員会から推薦を受理したとの連絡があり、正式に候補になったそうです。スゴイ！

ノーベル賞は「人」が対象なので、実際には「9条を守り続けてきた日本国民」が候補だそうです。

長年にわたり改憲勢力に抗して守られてきた9条。世界から評価され、いよいよ真価発揮ですね。

受賞者の発表は10月10日。エールを送りましょう！



いちばん星メンバーのつぶやき

安倍政権は多くの人々の反対の声を無視して、「戦争ができる国」へとものすごいスピードでこの国を変えている。昨年末、「特定秘密保護法」を強行採決したが、4月1日には、武器の輸出・開発などを認める「防衛装備移転三原則」を閣議決定した。こんな大事なことを、国会にもかけないで決めていいものだろうか。この国の武器が使われ、人が殺されることが現実になるのだ。先の戦争の後始末もちゃんとできていないのに、また戦争への道を歩み始めている。

日本軍「慰安婦」制度のもとで性暴力を受けた被害者たちは、戦後70年近く経った今でも謝罪や尊厳の回復を求め続けている。しかし、首相・大阪市長・吹田市長・NHK会長などは「慰安婦」制度の事実さえ認めたくないのだ。先の豊中市議会3月議会の委員会でも、自民新風会の議員が【「日本軍『慰安婦』制度は国家主導で創設・運営された世界でも稀な性奴隷制度」というのは、「特定の偏った政治上の主義である」と発言したそう。彼らが「慰安婦」制度を直視しないのは、女性の人権を認めたくないという思いがあるからだろう。こんな男たちが政治家である社会に大きな不安を感じる。(椿)

安倍政権の支持率今もって50%も！69年間守ってきた平和を捨てようとしているのに！経済が良くなったような感じのせいか、安倍さんの言葉巧みなまやかしのせいか、世論調査に怒りが増幅する。集団的自衛権の行使が積極的平和主義?!なんて訳の分からない言葉でごまかそうとする。日本を一体どんな方向に向かわせようとしているのか！少なくとも私たち年寄り世代はしっかり見抜いて、若い世代が二度と戦争を経験することのないようどんどん声を上げていかなければ、そしてそれが大事な務めだと思う。

シニアパワーを発揮するのは今でしょ！(M.U)

明るく元気に怒りたい人、いちばん星へ！

九条の会・豊中いちばん星 連絡先

FAX: 06-6849-0251

Eメール: toyonakaichibanboshi@live.jp

〒560-0021 大阪府豊中市本町1-1-1

市民活動情報サロン気付

URL: <http://9jo-ichibanboshi.jimdo.com/>